

令和2年度学校経営計画に対する中間評価報告書

令和2年10月30日現在

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
1 生徒の主体的で協働的な学びを支援し、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード)	① 県工学びのスタンダードを活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工Thinking time」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 【改定】 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(教務課・各教科) 中間評価 ( B ) 「そう思う」「ややそう思う」の割合が、66%であり、B評価である。 今年度は、6月から授業を再開しており、進度を確保するためやや講義中心の授業になったと考えられ、生徒が発言したり記述したりする機会が少なかった。後期は、R80などを活用し、記述と発言の機会を増やせるものと考えている。
	② 生徒の主体的な学習を促し、学習の定着を目指す。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【継続】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(教務課・各教科) 中間評価 ( A ) 「できた」「ややできた」の割合が83%であり、A評価である。 前期は、臨時休業中の予習課題への取組や、授業再開後も講義中心であった授業内容を補完するための復習プリントへの取組を生徒に促したことを評価できた。後期は、生徒の取組の状況を適切に評価し、生徒にフィードバックすることで、家庭学習を含めた全体の学習時間を向上させたい。
	③ 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【改定】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(教務課・全教員) 中間評価 ( A ) 「している」「ややしている」の割合が94%であり、A評価である。 6月からの授業再開後、できる限り講義中心とならないよう、生徒に主体的な活動をさせる工夫を各々の教員が意識していたことがうかがえる。後期は、進度もそろってきたので、よりいっそう主体的な活動ができるようになる。
	④ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 【継続】 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(学習情報課) 中間評価 ( B ) 生徒対象の授業アンケートの「先生はICT機器を効果的に活用した授業をしている」という項目に「当てはまる」「おおむね当てはまる」と解答した生徒は合わせて67%で、B評価となった。 プロジェクターとスクリーンはすべての普通教室に導入されたが、実習等で使用するものが不足することもあり、さらに整備の充実を図りたい。また、ICTの活用例やDVD、動画のライブラリーを充実させたい。
2 規範意識やマナーの向上の取組を通して、将来の職業人として高い意識を持った生徒を育成する。(人間力スタンダード)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【改定】 A 80%以上 B 60%～80%未満 C 40%～60%未満 D 40%未満 遅刻者数(実人数)減少の割合で判断する。 【改定】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・各学年) 中間評価 ( B ) 教師対象の学校評価アンケートで、「日頃の挨拶がしっかりとできていると思う」が25%、「やや思う」が52%、合計77%でB評価であった。 しかし、自ら率先して挨拶をするのではなく、挨拶をされたから返礼するケースが多いように感じる。積極的な挨拶ができるよう、学級・学科・部活動の3者でしっかり連携をとり、挨拶の励行を徹底していきたい。
	② 周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工ものづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 【継続】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(総務課) 中間評価 ( ー ) 今年度は、コロナウィルス感染拡大防止のため、全日程を中止した。周辺美化活動は、1、2年生で実施する行事であるが、これまで一度も活動できなかったことが残念である。次年度は積極的に活動できることを願いたい。
	③ 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数(累計)減少の割合で判断する。 【継続】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・学年団) 中間評価 ( A ) 石川県警察本部からの交通違反指導状況では、9月末時点で13件(昨年度56件)と、昨年に比べ激減した。また、交差点での接触事故件数も、10件(昨年12件)と若干ではあるが数を減らすことができた。今後もメールや担任を通じて、交通ルールを意識して登校するよう声かけを継続していきたい。
	④ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【改定】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(生徒指導課・全職員) 中間評価 ( B ) 教員対象の学校評価アンケートでは「アンテナを高くして生徒の様子を観察し、教員相互の頻繁な情報交換により、いじめに関する問題を未然に防ぐことができる」が25%(昨年40%)、「やや思う」が63%、合計88%(昨年94%)であった。 今後も、教師間で生徒の情報をしっかりと共有し、生徒にとって安全で安心できる環境になるよう、各学科・学年で生徒に対する観察をしっかりと行っていきたい。

令和2年度学校経営計画に対する中間評価報告書

令和2年10月30日現在

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
<p>3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現を図る。(技能スタンダード)</p>	<p>① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。</p>	<p>進路指導課 3学年年団</p>	<p>就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満</p>	<p>(進路指導課・3学年年団)中間評価( A ) 学校推薦による就職希望者155名のうち148名が1社目で内定した。1社目受験での内定率は昨年度と同じ96%という好結果を得ることができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回初めてテレビ会議システムにより面接試験を行う企業があったが、事前準備を十分に行うことにより、しっかりと対応することができた。</p>
	<p>② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。</p>	<p>工業7学科 教務課</p>	<p>認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。[改定] A 70名以上 B 60名～70名未満 C 50名～60名未満 D 50名未満</p>	<p>(教務課・工業7学科)中間評価( D ) 現在のところゴールド4名、シルバー8名である。 今後増える見込みであるが、コロナ禍で多くの資格試験等が中止されており、人数の増加はそれほど期待できない。</p>
	<p>③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。</p>	<p>工業7学科</p>	<p>[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した</p>	<p>[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会] (工業7学科)中間評価( - ) ものづくりコンテスト、ロボット競技大会等の各種の大会がすべて中止となった。ものづくりコンテストの旋盤作業部門およびロボット相撲大会については、今後、年度内に代替大会が開催される予定となっており、上位入賞を目指していきたい。また、その他の中止になった大会については、来年度の大会出場に向け、早期に準備を図っていきたい。</p>
<p>工業7学科</p>		<p>[地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した</p> <p>各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。[継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選</p>	<p>[地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会] (工業7学科)中間評価( - ) 全国ソーラーラジコンカーコンテストが中止となった。今年度出場を予定していたソーラーカーをさらに改良し、来年度の全国制覇につなげていきたい。</p> <p>各種コンテスト、コンクール(工業7学科)最終評価にて実施( A ) ・ステューデント・ファッション・デザインコンテストきものデザインの部中央区長賞(準グランプリ相当) ・全国高校生ウェディングドレスデザイン画コンクール佳作 ・環境月間ポスターコンクール(県審査)最優秀賞、優秀賞 ・愛鳥週間ポスターコンクール(県審査)優秀賞、優良賞 ・石川の農林漁業まつり広報図案コンクール特選、入選</p>	
<p>4 学校行事や部活動等を通して、粘り強くたくましい体力と精神力及び周囲と協働する意識や社会性を培う。</p>	<p>① 活発な部活動を通して、加率と成果の更なる向上に努める。</p>	<p>生徒会課</p>	<p>部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。[改定] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p> <p>県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて)[継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下</p>	<p>(生徒会課)中間評価( A ) 部活動に意欲的に「取り組んでいる」、「やや取り組んでいる」を合わせると87%であった。今後も継続して生徒が意欲や目的意識を持って部活動に取り組めるよう、顧問の先生方をはじめ担任の先生方には部活動運営に携わるよう促していきたい。</p>
	<p>② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。</p>	<p>生徒会課</p>	<p>保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。[継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p>	<p>(生徒会課)中間評価( A ) 「満足している」「やや満足している」をあわせると95%と高い割合であった。生徒の士気が低下しないように今後もコロナウイルス感染拡大防止対策を確実に実行し、学校行事を実施していかなければならない。</p>
	<p>③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。</p>	<p>保健課</p>	<p>歯科受診済の生徒の割合で判断する。[継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満</p>	<p>(保健課)中間評価( - ) 今年度は歯科検診の実施予定が大幅に遅れ、9/25・10/29に行われた。現在学校全体で半分の生徒に検診結果を配布したところである。受診率向上のため保健便り等で啓発するとともにクラスや部単位、保健室での個別指導を実施し受診率の向上につなげたい。</p>
<p>5 教職員が相互に業務を点検・改善し、教育の質を落とすことなく組織的で効率的な業務の在り方を探る。</p>	<p>① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。</p>	<p>各科・学年・各課</p>	<p>定時退校日を半分以上達成している教員の割合で判断する。[改定] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p>	<p>(各科・学年・各課)中間評価( C ) 「ほぼ毎回定時に退校している」、「定時に退校している日が多い」を合わせると、一斉の定時退校日が60%、個別の定時退校日が78%、平均69%でC評価となった。定時に退校できていない先生方の多くは校務分掌や部活動で学校に残っている。効率的な情報の共有、ICTを活用した仕事の効率化、業務の役割分担の工夫などにより、さらなる業務改善に取り組んでいきたい。</p>